

座談会

平成3年7月於東京八重洲 スペース「トク」出席者下記の通り。

朝倉 康夫 (昭和29年卒)

三枝 欣一 (昭和29年卒)

徳用 (羽田) 佳夫 (昭和30年卒)

中村 頼人 (昭和31年卒)

竹尾 敏広 (昭和31年卒)

岡本 圭 (昭和32年卒)

吉田 格磨 (昭和32年卒)

片石 (佐藤) 千鶴子 (昭和33年卒)

藤井 昂一 (昭和33年卒)

中村 われわれの時代はどの位置づけられる
んでしょうか？

朝倉 僕が入学したのは昭和25年で翌26年から体育会のバドミントン部になったわけだけど、同好会的なクラブ活動から組織的体育会的な活動への過渡期であったと位置付けが出来るのではないかな。どのスポーツでもそうなんだが、先手必勝で新しものがり屋で先にやるのが慶応の慶応たるゆえんであり最初は慶応が圧倒的に強いんですよ。バドミントンについても同じ事が言えて他校がやっていない時期に、いち早く特に戦前の昭和10年代からやっていったという歴史があるから戦後も当分の間常勝で進んで来て昭和28年頃までは実力的に強く成績としてはまあよかつたわけですよ。しかし他校が慶応に追いつき追いつて来たとすこいフアイトで目の色を変えてやってくるという時期で、その先頭が立教と明治だった記憶があります。関東大学リーグ戦で慶応が試合をすると他校は全部対戦相手

校を応援するという雰囲気があつて、慶応が負けると他校は皆わいわい喜んでいてそれがバドミントン全体のレベルの向上につながっていたんですよ。

竹尾 昭和26年というのはインカレの団体戦が始まった年なんですよ。その当時は慶応は当然勝つものだと思つて安心して試合を見ていられたし安心して試合をやっていたんですよ。練習のときもどこかに勝とうという部全体の目標が殆んどなかつたようでもむしろ個人的に誰か全日本のチャンピオンになるかということが主題だったようですよ。

藤井 体育会に加入する前は何処で練習をしていたんですか？

朝倉 その頃から天現寺の幼稚舎でやってましたよ。天現寺の橋のたもとの今川焼き屋さんのお倉庫にあつてあるネットとシヤトルを取り出して幼稚舎の体育館でネットを2面張っているとか部員が三々五々集まつて来る。そしてじゃあやるかといつてすぐシヤトルを打

って練習をはじめるといふような感じだったね。20年代は戦後間もなくの時代で練習の仕方だとか部自身の動きも今から考えるとどんなことやっていたのか記憶にないけどリーグ戦では勝っていたといふことで想像がつくでしょう。

竹尾 幼稚舎の体育館はコートが2面しかなかったけど1面のコートの練習はすごかった記憶がありますよ。今みたいにくいつも大会があったわけじゃなくて、全日本、国体、インカシ、大学リーグ戦、インターハイと実業団の大会しかなかったわけですよ。この大会で慶応のメンバーがとつかえひつつかえ優勝していた。当時のバドミントン界は殆ど主力は学生だけで、その学生の中には慶応だったからあんまり外を見て他を考える事なんかしなかった。次のリーグ戦をどうするかと考えるだけの話でゆうゆうたるものだったんですよ。追うものなしといふことだね。

徳用 昭和26年に1年生だったんですが体育会入会といふことだと思いがあつたんです。慶応義塾体育会といふバッチがあつたでしょ。その時2・3・4年生の先輩は体育会加入前の入会だったから、誰もバッチを持っていなかったんですが、新入生の一緒に先輩達の方もバッチが来て着けたわけですよ。その時先輩から「お前達は1年からのバッチがつけられて幸せ者だ。俺たちは4年になってやっと体育会のバッチが貰えたんだぞ」と言われたのを憶えています。

三枝 僕達が大学1年になった時(昭和25年)バドミントンの普及とか技術指導とかいふ話が地方のあちこちで出て来たんだよ。慶応義塾には上手い人が多いから、教えに来てくれとか夏休みにコーチを頼みたいといふ話があつ

て、地方の大学や高校へ行って教えバドミントンの普及に大いに貢献したんだよ。

朝倉 僕は高見さんと郡山へ行った。三枝と内田はどこだった？

三枝 僕達は木更津へ行つたよ。

藤井 年代はもう少しあとだと思えますが、僕は、吹野監督、朝倉さんに連れられ、久留米に行つて、地元大学生と模範試合をやり、その後、男女高校生への技術指導をやりました。塾はバドミントンの底辺を広げる役目を立派に果し、日本バドミントン界への貢献は計り知れず、大いに自負していいですね。

三枝 昭和25年に初めて地方合宿を新潟に行つてやったんだよ。それまでは葉山の三菱養和会を石井さんの紹介で借りて、合宿をした。

朝倉 新潟の合宿は新潟県の協会に招かれて行つたんだよ。宿泊場所はお寺さんだった。

藤井 合宿の思い出は楽しいですね。浅間温泉の合宿は何年か続けて行きましたが、旅館の大広間で、フトン蒸しをやって、寝顔にフジックでいたずらをしたりして、毎日のように上級生から罰を受けたことや、中日の練習休みの日に行なつた美鈴湖へのハイキングと釣りなどは忘れられない。

岡本 朝倉さんが主将になられた昭和28年の仙台の合宿の頃から部としては団体行動的な形が出来て来たんじゃないですか？三枝さんが一生懸命号令をかけて練習をやられていたのを憶えています。

朝倉 藤井さん、広田さん、小宮さんの頃は他校を圧する力があつて、間違ひなく優勝が約束されているわけですよ。ところがその方たちが卒業されると戦力がダウンし他の学校は追い付け追い越せとやって来ている。ここで今までと同じ様な部のあり方では大変だ

という意識が僕の中に潜在的にあり、もうちょっと何かしなくてはという気持ちがあった。それと秋には仙台でインカレが開催される予定だったので夏の合宿は少しでも場数を踏んでおこうという意味で、インカレの会場に予定されていた東北大学の体育館を借りて夏の合宿練習をやったわけなんだ。当時としては画期的なことだったんだよ。それ以前のインカレは会場を事前に選んで合宿するといふほどの危機感がなくとも勝ってたんだよ。ところが僕が主将になった時はものすごく戦力ダウンだったから東北大学の体育館で馬飛びをやったり随分基礎体力づくりをやったんだ。

吉田 僕らの仙台の記憶は強烈でしたね。レギュラーや上級生が練習している周りをいやめろといわれるかわからず延々と走っているんですよ。実のところコートが空かないんです。その頃は兵藤さんもお元気でいろいろ発破をかけられていますね。そしてうっぶん晴らしを夜旅館でやっていたというのが思い出されます。

朝倉 練習の内容も今みたいに知識が豊富だったらしいなやり方を組み込んでいたと思うけど、当時大学の4年間で基礎体力強化の練習らしい練習をしたのは、広田さんのお父さんがYMCAの体育主事をされていて皆来いということと横浜のYMCAに行っただけでフォーム体操をみっちりやらされて足腰が立たなくなっちゃって、ものすごくきつかったこと位だな。広田さんのお父さんは科学的で、バドミントンで使う筋肉はどこだ、その筋肉を鍛え体力を伸ばすためにはどうすればよいかというところから体操がはじまっているわけだよ。それでその体操をやったらもう動けなかつたよね。階段なんかあがれなかつた。

岡本 あの頃バドミントン部の体操がはじま

ったんじゃないですか？朝倉さんが主将のときに小宮(章)さんがよく覚えると言われて一生懸命覚えようと気をつけました。

吉田 仙台の合宿の前に小宮(章)さんが体操を全部つくられてその絵があつたんですよ。そして1年生がそれぞれお前やってみると言われて天現寺の幼稚園でのトレーニング中にやっただよなね。体操はこうやるんだという紙を貰ったんですよ。カーボン紙で写したような紙だった。

竹尾 それは僕は記憶がないなあ。

朝倉・吉田 サボッテたんじゃないの？(笑い)

竹尾 デンマーク体操なんか僕の記憶には何にもないというのが実感で、天現寺に皆がフアーツと来て、来た途端に練習がバカバカ始まってランニングも体操もないですよ。レギュラーの人はタンタカタタンタカ打っていて下々の僕らのようなはみ出し者は下の方でウロウロしていて、終ったなと思ったら帰ろうと朝日屋のいか丼を喰って帰って来たという毎日でしたよ。

吉田 僕が1年に入った昭和28年はもう体操がありましたよ。レギュラーが練習しますよね。それで僕らがグラウンドを走っているわけですよ。「コートが空いたら入れよ」と言われていたんですが暗くなっても全然声がかからないんですよ。そしたら朝倉さんが「アツ忘れた」。

三枝 僕たちが慶応高校の頃はバドミントンは体育会に入っていたから大学もクラブだし高校も同好会でそれぞれ別だったけれど大学が高校の同好会の面倒を見ていたわけですよ。練習もYMCAに行ったりするもんだから一緒になつてしまいうわけね。

吉田 大学も高校も1つの固まり1つの団体

みたいだったんですね。

徳用 大学も体育会として認められていないし、高校も認められていないので心の拠どころがないわけ、どこへ行っても。

吉田 天現寺では大学と高校と一緒に練習はしたわけですか？

三枝 一緒に練習はしたんだが高校生にはちやんとやらせてはもらえなかった。大学の方は日本の一流選手がやっているんだから。

片石 そういう流れで結局女子高校にバドミントン部が出来たときも大学の方に面倒を見て貰えなくてけんかした記憶があるんですけど…ただやってもいいとかいいうけど面倒を見て貰えなかった。

竹尾 女子高校でバドミントン部が出来たのはどんな経過だったの？

片石 昭和27年に私たちが2年生だったんですけど上級の3年生に関係なく2年生が主になって作ったんです。

中村 その時にすぐ体育会バドミントン部の女子高校部門になったわけなの？

片石 そうです。大学の部の付属になったんです。

朝倉 そして幼稚園で練習したんでしょう。大学の練習より時間を早くとって練習してたよね。

片石 女子高校と男子高校とが大学の練習の前に同時に練習をしたんです。私がおそらく印象にあるのは、大学1年の時か高校3年の時だと思いますが、どうやって練習したらいいか、プレーはどうすればよいかよくわからないので、有名先輩に教えて下さいって言ったんですよ。それならうちの部の伝統として他人に教えて貰ってやるもんじゃない。うちの部は皆が個々に自分でプレーをつくり出してやっついていくんだよと言われたんですよ。

徳用 当時は皆全日本で覇を競っている人が同じ部でやっているのだからとられたくないわけよね。だからそういう人たちは他人に教えるなんてことはしなかったですよ。

竹尾 それともう1つ、何をやってるのかまだわからない初心者に教えろと言われても教えるところがないというのがあるでしょう。だって片方は全日本クラスなんだから。

三枝 それに皆がそれぞれ企業秘密なんだよ。

竹尾 だけど、それじゃあ、あれを介してあいつに教えさせようというのが普通の考え方でしょう。

朝倉 だから体育会ということになって来るとやっぱり自分の後輩に技術を教えて部として伝統をつくっていくこうというのが体育会的な考え方ですよ。そうじゃなくて1つのスポーツクラヴの中であいつに負けてはいけないという考え方があったね。

片石 それはすごくありましたよ。だから何という部なんだろうと子供なりにも体育会の他部のことを少し知っていたい人も体育会からのバドミントン部というのはすごく利己主義なんだなあと思ったのがすごく印象にあるんですよ。

中村 でもその後女子部の声があまり大きかったので専任のコーチをつけるようになったよね。

片石 そうですね。最初は兵藤先生がいろいろ教えて下さって、その後大学の部員を専任コーチに決めていただいで、教えていただいたり練習台になっていただいたりしたんですよ。

吉田 ヘボが皆女子のコーチになったんだ。

(笑)

岡本 ヘボだから丁度良かったんだ。

片石 それがいい練習で皆教えてくれたし、そばについてずい分仕込んで貰えたんですね。最初の利己主義の印象があったので女子は女子なりに自分達で何とか強くなろうという考えでやっていました。

徳用 慶早定期戦をはじめた時のことは思い出にあるね。だんだんバドミントンが普及して来たけどバドミントンに関する新聞記事の掲載というとはんのちよつとしか載らない。全日本でも試合結果の記事が2・3行しか載らない。そこで何とかスポーツ紙だけでもいから記事に大きく取りあげて貰うために何か考えなくちゃという事で新聞社へ頼みに行つた。そしたらバドミントンなんて駄目よ知らないよというわけね。丁度私の兄がフイギユアスケートの方をやっていて、当時のフイギユアスケートというのは新聞社には受けがよかつたので兄に頼んでフイギユアスケートの担当の方からお願ひして、バドミントンの定期戦を何とか取りあげてくれと言つて貰つた。そしたら早稲田との定期戦なら早慶戦という事でネームバリューがある。他校との定期戦でなく早稲田とやるならば新聞社が後援するところまでござつて、しおしお記念品のバツクルの提供と記事もこの程度は載せましようと言つてくれたので私は兄を連れておれに行つたことがあるんですよ。

竹尾 あの記事は相当大きかったですよ。

中村 慶早定期戦はその1年位前からその準備として一緒に練習したり早稲田との交流をいろいろやっていらつしやつたんじゃないですか？

徳用 新聞社の方が慶早定期戦ならいいですよ一枚乗りましようということになって、早稲田のサブマネージャーと一杯のみながら実はこれこれしかじかと話をしたんですよ。当

時早稲田は関東大学リーグ戦に加盟したばかりで2部の1位か1部の6位にいた頃でバドミントン界では早稲田と慶応とでは実力的に開きがあつて評価されない対戦だったんですが、社会的通念からいうと早慶戦というのは非常に興行価値があつたんですよ。それで他校にはだまつていて、早稲田と慶応とは学校として仲がいいから定期戦をやるんだということにしようと思案したんですよ。そしたら早稲田から尻ごみして来て、どうせやつたつて負けるんだし、早稲田としても体面があるからかんべんしてくれ、もう少し強くなつたらいつれやりましようというような話があつただけけど、その辺を何とかとつて一杯飲んだりいろいろあつて、やつとやりましようということになった。

竹尾 今から考えると大変な功績ですよ。その後ずつと続いているんだし……

三枝 当時関東大学リーグ戦に1部と2部があつたんだが、入替戦とかやらないために6大学連盟にして6大学リーグ戦にしてはどうかというような話もあつただけど1部の6位がちよいちょい入れ替わるので実現しなかつた。

徳用 早慶定期戦をやると決めたら一部のOBから反対されましてね。バドミントンでは実力の低い早稲田と定期戦をやつて早慶戦だとかいう君らの発想は不純だと言われてね。

竹尾 それは当時の状況からわかりますね。

徳用 だから毎年早慶戦の案内状をいただくときを思い出してね。本当に続いているんだな。やつぱり慶早定期戦で良かったんだなど。
藤井 僕のインカレの思い出は昭和30年です。中村さんがマネージャーの時で札幌で行われたんですが、石田さんの家にレギュラーが

皆で泊めていただき、お母さん、妹さん、それに親戚の美人のお嬢さんにお世話になり、川原でイモ煮会をやったり、リンゴ園を散策したり、試合後の摩周湖観光で撮ったスナップ写真は懐かしいですね。

吉田 インターカレッジの決勝戦で印象に残っているのが昭和29年です。京都の同志社大学の体育館で夜遅くまでかかったんですよ。

団体の決勝戦でダブルスを2つ勝ってシングルスは3つ負けたときで試合が終ったのが夜11時頃だったんです。ダブルスを2つ勝った時点で竹尾さんが「おい吉田、スキ焼きの用意!!スキ焼きの用意!!」「はいはい」とか言って皆喜んでやってるから、わざわざ自転車を借りて旅館まで行って、スキ焼きの用意をしたんですよ。「おばさん、今日は優勝して帰って来るから上等のスキ焼きでいこう」とかいって会場に帰ったんですよ。そしたら試合は負け。旅館に帰ったらスキ焼きは用意してあるのに、本当に誰も手をつけないんです。どうなるのかなと心配していたら監督の栗野さんが、ポソツと、「メシだけは喰おうよ」と言われましたね。

竹尾 あれはものすごい試合だったね。確か女子がインカレに初めて出場した時だよ。

片石 私たちが1年生のときです。竹尾さんに涙の佐藤・高橋と笑われた時ですね。あの時今の会長の小宮さんが学連か協会の役員をしていらっしやって、「お前たち恥ずかしいよ」と言われたことを憶えています。インカレに出場させて下さいと言ったけどすぐにOKと言われなかったので涙を流して頼み込みやっとう出場したわけですよ。そして試合の前に男子と同じように張り切ってやらなくちあいけないと思って大きなこえでフレフレケイオーとやったわけですよ。そしたら、みつと

もないから止めてといわれたのが記憶にあります。

吉田 女子がインカレで2位になったのはその3年後、確か昭和32年だね。

三枝 バドミントン界の歴史をみると昭和20年代の後半から30年代の前半が1つの転機だったね。僕が学連の仕事をしていた時(昭和28年)バドミントンがだんだん普及して来たが実力的には学生が主導権をとっていた。そこで学生は国民体育大会に出るのを止めようと提案したんだ。そのわけは、学生でバドミントンをやっている人は兎に角日本で一番強いんだ。国民体育大会というのは祭典なんだから、そのほかの選手権大会で優勝できない人に優勝のチャンスを与えようじゃないか。そして普及率をもっと高めようということになった。それ以降学生は国体に出ないことになったが、今はどうなっているのかな?

吉田 今も出られませんよ。だけど今は学生より社会人の方が強いんです。今度は学生の方が入れて貰わなくちゃならない時代ですよ。

三枝 入れてくださいいか。えらい違いだね。

吉田 僕らが卒業(昭和32年卒)してから成績が良かったのは昭和35年にインカレ(大学選手権)で優勝した時と昭和39年インカレ団体2位だけですね。後は個人戦での優勝ばかりで団体戦では振るいませんね。何とか優秀な選手を見つけて慶応に入学させ現役にかんばって貰いたいものです。